

被服製作 4 級

(1) 程度

ミシン操作、布地の基本的な扱いが分かり、ミシン縫いと手縫いの基礎縫いができる。

(2) 内容

① 実技試験 (検定時間35分)

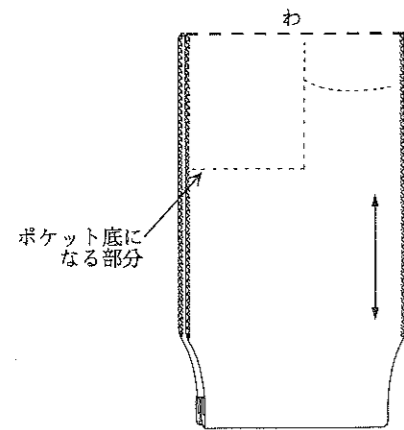
- ・ミシン縫い・手縫いの基礎縫いをする。
- ・実技試験の内容は、評価基準に記載の連絡文通りとする。

② 筆記試験なし

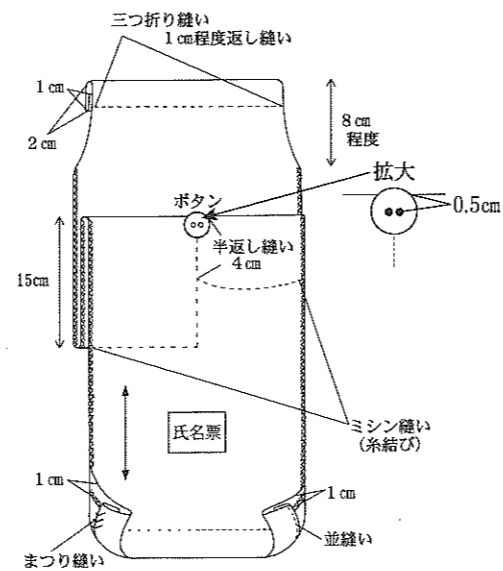
(3) 実施上の注意

- ① 実技試験の問題通りでない場合は失格とする (ミシン縫い・半返し縫い・ボタンつけのいずれかが4枚重なって縫われている場合)。
- ② 未実施の箇所が1か所以上ある場合は、失格とする。
- ③ 時間超過は10分までとし、5点減点とする。ミシン縫い・手縫いの各項目が半分に満たない場合は、その項目は0点とする。
- ④ 準備作業を規定通り実施させる。
- ⑤ ミシンはすぐ縫える状態にさせておく。
- ⑥ 手縫い糸は針に通して、すぐ縫える状態にさせておく。
- ⑦ 手縫いはすべて1本どりで行う。

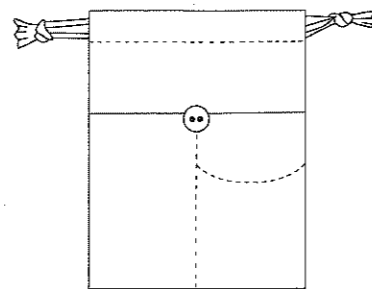
準備作業



できあがり図



採点後



(4) 検定基準 (検定時間35分)

1 材料

(1) 用布

・綿ブロード・シーチング (無地) またはそれに準ずるもので、布幅 $\frac{90}{4}$ cm、長さ85cmとする。ただし、両端が捨てミシンやロックミシンなどでしまつされているものとする。

(2) 糸

・糸は目立つ色で、50~60番の糸を用い、手縫いはミシン糸でもよい。ただし、ボタンつけ糸は30番とする。

(3) ボタン

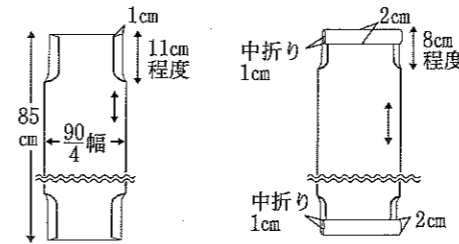
・大きさは直径1.5cm程度で2つ穴を用いる。

(4) ひも・ロープ

2 準備

準備作業をさせる。

- (1) 四隅を布端から11cm程度まで1cm折る。
- (2) 上下を中折り1cm、できあがり幅2cmに折る。
- (3) 製作に必要な用具を整えさせる。

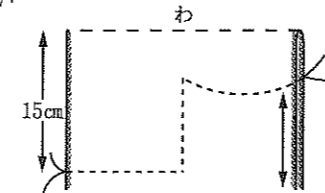


3 実技試験

準備作業に引き続き製作する。

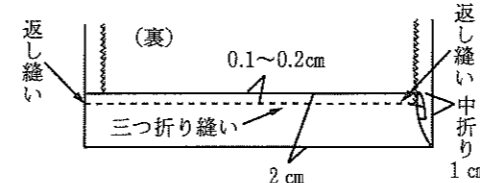
(1) ミシン縫い

・図案縫い



- ① 図案通り直線・角・曲線を縫う。
- ② ミシンの針目は、3cmにつき16針程度とする。
- ③ 直線・曲線のどちらから縫い始めてもよい。
- ④ 縫い始めと終わりは、返し縫いをしない (糸結びは時間外とする)。
- ⑤ 途中で糸が切れたときは、2cm程度重ねて縫う。

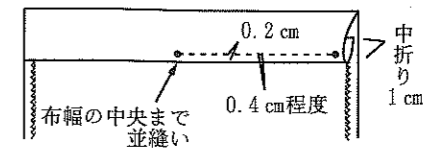
・三つ折り縫い



- ① ミシン縫いは、折り山より0.1~0.2cm内側で、縫い始めと終わりは1cm程度の返し縫いをする。

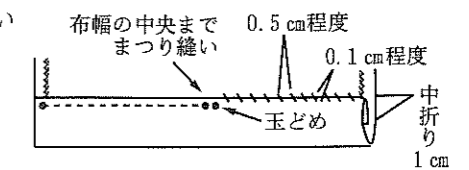
(2) 手縫い

・並縫い



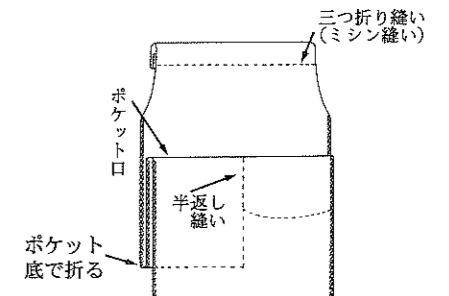
- ① 図示された位置に布幅の中央まで並縫いをする (しるしをつけてはいけない)。
- ② 針目は0.4cm程度とする。
- ③ 糸こきをする。
- ④ 縫い始めと終わりは玉どめをする (玉どめは外に出てもよいが、表には出さない)。

・まつり縫い



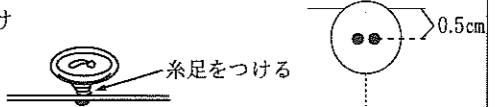
- ① 図示された位置に、布幅の中央までまつり縫いをする。
- ② 針目の間隔は0.5cm程度で、表目は0.1cm程度とする。
- ③ 縫い始めと終わりは玉どめをする (玉どめは外に出てもよいが、表には出さない)。

・半返し縫い



- ① ポケットの底で折る。
- ② 図示された位置に3枚一緒に半返し縫いをする。針目は裏目0.6cm、表返し目0.2cm程度とする。
- ③ 玉どめは裏にする。

・ボタンつけ

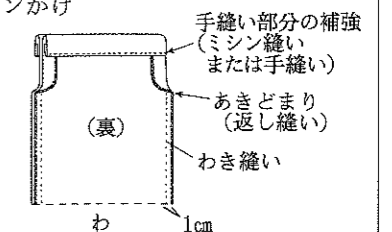


- ① ポケット口から0.5cm下にボタンをつける。
- ② 糸は30番の糸1本どりで3回かけ、糸足を3回程巻き、しっかりつける (玉どめは裏に出てもよい)。

4 事後作業

(1) 糸のしまつ、アイロンかけ

(2) 作品氏名票つけ



5 採点後

(1) わき縫い

(2) 手縫い部分の補強

- ① 図示された位置にミシン縫いをする。
- ② 縫い始めと終わりは、1cm程度の返し縫いをする。